

景観グループ



ならやま虫だより

◆ 3年目の竹の子掘り

松尾 弘

ならやまへ入会して三度目の春になりました。入会して初めての春に竹の子掘りを生まれて初めてしました。福田先生に竹の子の掘り方を教えてもらいました。掘る方向を見分けるのに周囲を掘ったんですが、地面は堅く石ころも多いし見分けるのが大変でした。一本掘るのに随分時間がかかりました。それでも何本か掘ることができました。盗掘の跡がたくさんあるのですが、盗掘跡の穴は小さいんです。私のように周囲を掘らなくても、どっちから掘ったらいいか分かってるんです。

実りの森の竹林の整備をしました。竹林の中を傘をさして通れる位がいいとの事。整備したのに次の春は竹の子はほとんど顔を見せませんでした。表年と裏年があるんだそうです。そして三年目の今年の春はビックリするほど大豊作でした。実りの森の孟宗竹も、ベースキャンプ西の真竹も。

竹の子を掘るのは楽しいです。今年入会された方へ竹の子の掘り方を説明したのですが、舌足らずでしたが分かってもらえたでしょうか。何本も掘ったことでしょうかから分かってもらえたと思います。今年の春は竹の子を何百本も掘ったと思います。もちろん掘り跡は小さいです。来春は裏年になるかどうか？



◆ ならやまの昆虫の消長

菊川 年明

7月は昆虫のオンパレードの月である。しかし、かつてはならやまにたくさんいた種類の昆虫なのに、近年は全く見かけなくなった昆虫があったり、逆に、以前は希な昆虫であったのに、最近では普通に見られるものもある。昆虫の消長にはいろいろなファクターがあるが、環境の変化が最も大きいのではなかろうか。

次の2種は増減の代表例である。

◆姿を消した昆虫

カナブン

クヌギやコナラなどの幹に、独特の香りのする樹液が出ているところには常連であった。それもたいてい数匹が群がっていた。しかし、ならやまに関する限り、カナブンの姿が消えて久しい。カシノナガキクイムシによるクヌギやコ



ナラの枯死と老木化による樹液の枯渇が最大の原因であろうと思われる。

◆増えた昆虫

クロコノマチョウ

忍者のようなチョウである。落ち葉の上で静止していると、周りの色に同化して、ほとんどわからなくなる。このチョウはこのことを知っているのか、たいていは落ち葉の上に止まっていて、人が間近まで近づいてもじっとしている。

以前は珍しいチョウであったが、近年は普通



にいるチョウになった。なぜ増えたのかは不思議である。幼虫はジュズダマで育つ。